

# スクールソーシャルワーカーへのアンケート調査 (ヤングケアラー支援に係る実態調査票)

## 【調査目的】

恵庭市内のケアラーおよびヤングケアラーの早期発見や実態・課題・支援ニーズの把握及び今後の計画策定や施策検討に役立てることを目的に実施する。

## 【主な調査項目】

- ・「ヤングケアラー」という言葉の認知度
- ・校内におけるヤングケアラーの有無
- ・ヤングケアラーへの対応状況
- ・必要と思われる支援

## 【調査対象】

恵庭市スクールソーシャルワーカー  
(市教育委員会を通じ各SSWへ調査票配布)

## 【調査件数】

3件

## 【回答件数】

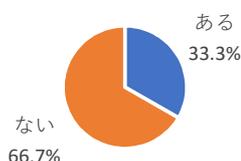
3件 (回収率100.0%)

※調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示している。したがって、合計が100%にならない場合がある。

**ヤングケアラーについてお伺いします。**

**問1 (1) 令和3年度以降、「ヤングケアラー」と思われる子どもとして対応を行ったケースはありますか。**

	件数	割合
ある	1	33.3%
ない	2	66.7%
総計	3	100.0%



問1 (2) 問1 (1) で「1. ある」と回答した方にお伺いします。対応した（対応中も含む）ケースは何件ですか。

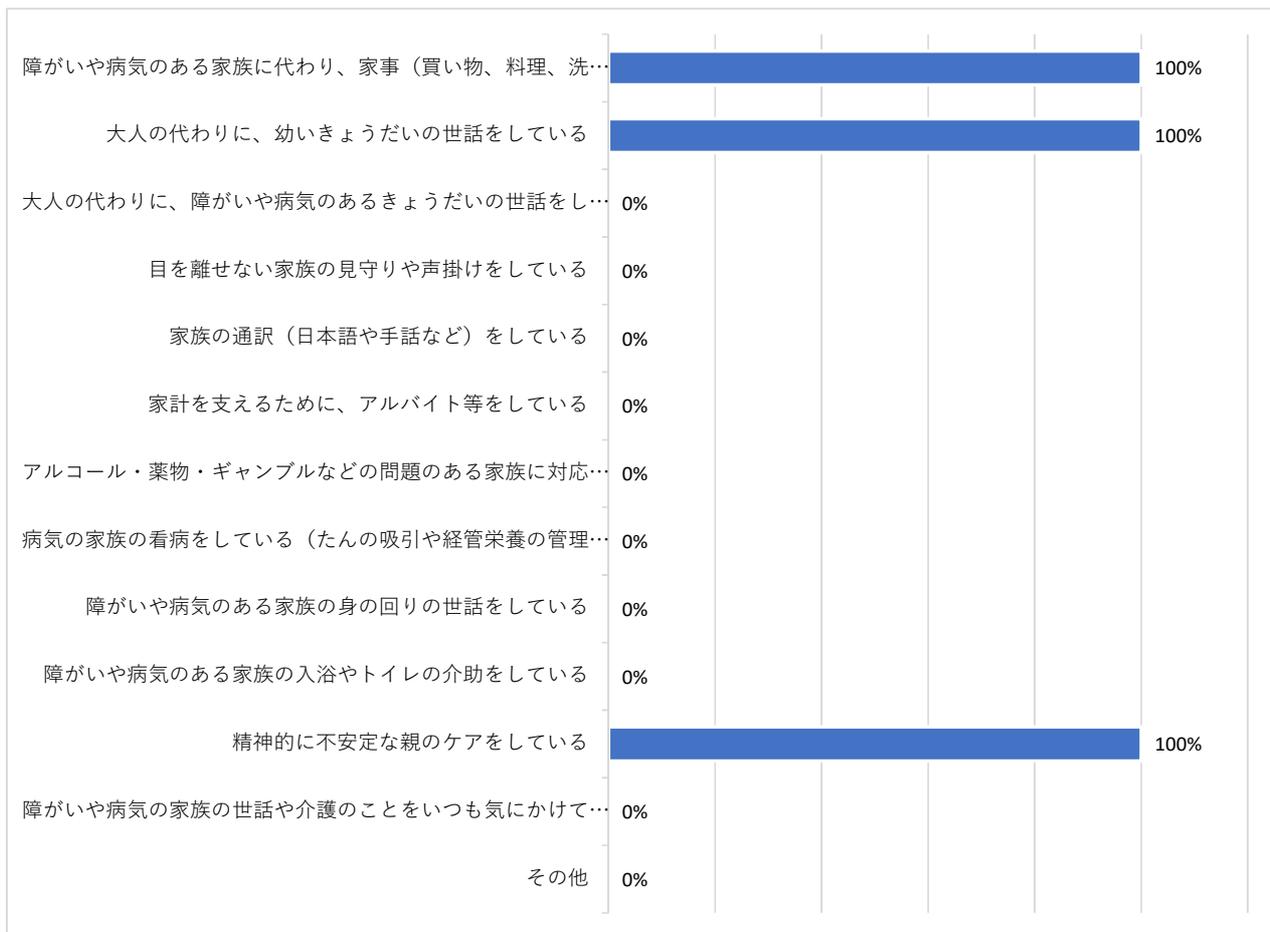
	件数	割合
1件	1	100%
総計	1	100%



問2 問1 (1) で「1. ある」と回答した方にお伺いします。

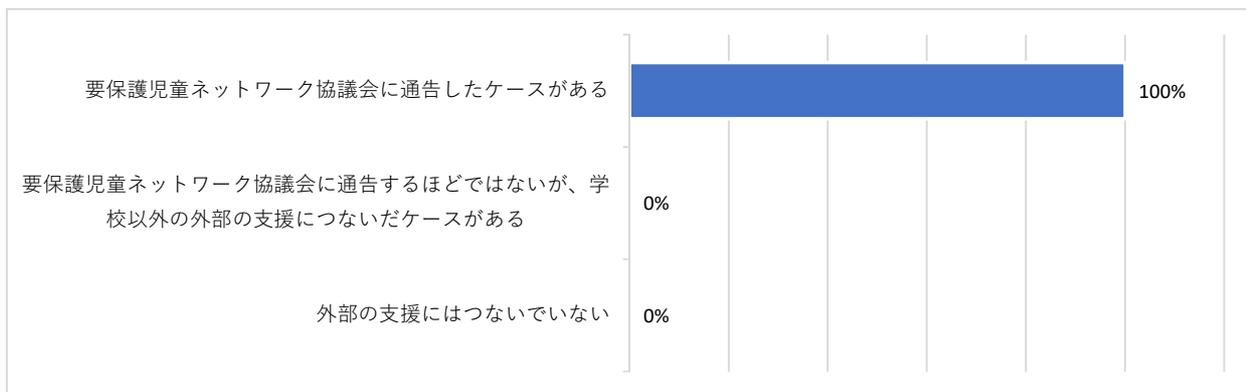
(1) ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。(あてはまる番号すべてを選択)

	件数	割合
障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	1	100%
大人の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	1	100%
大人の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている	0	0%
目を離せない家族の見守りや声掛けをしている	0	0%
家族の通訳（日本語や手話など）をしている	0	0%
家計を支えるために、アルバイト等をしている	0	0%
アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している	0	0%
病気の家族の看病をしている（たんの吸引や経管栄養の管理等、医療的ケアを含む）	0	0%
障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている	0	0%
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている	0	0%
精神的に不安定な親のケアをしている	1	100%
障がいや病気の家族の世話や介護のことをいつも気にかけている	0	0%
その他	0	0%
n	1	100%



(2) ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部（教育委員会、要保護児童ネットワーク協議会など）の支援につないだケースはありますか。（あてはまる番号すべてを選択）

	件数	割合
要保護児童ネットワーク協議会に通告したケースがある	1	100%
要保護児童ネットワーク協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある	0	0%
外部の支援にはつないでいない	0	0%
n	1	100%

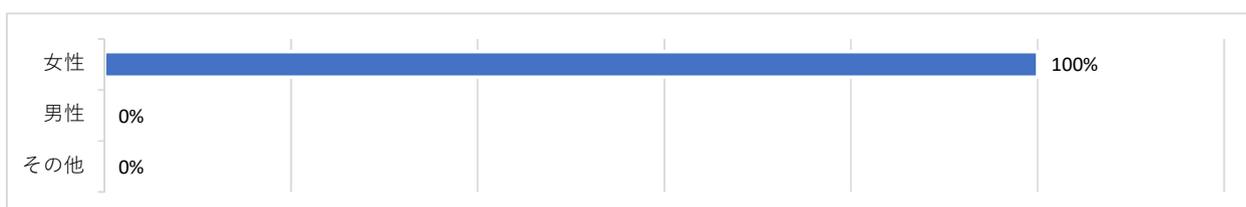


(3) (2) で「1. 要保護児童ネットワーク協議会に通告したケースがある」、又は「2. 要保護児童ネットワーク協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方にお伺いします。それぞれの該当する直近のケースについて、1件ずつ（複数の場合は任意）お教えてください。

(3) -1 1. 要保護児童ネットワーク協議会に通告したケース

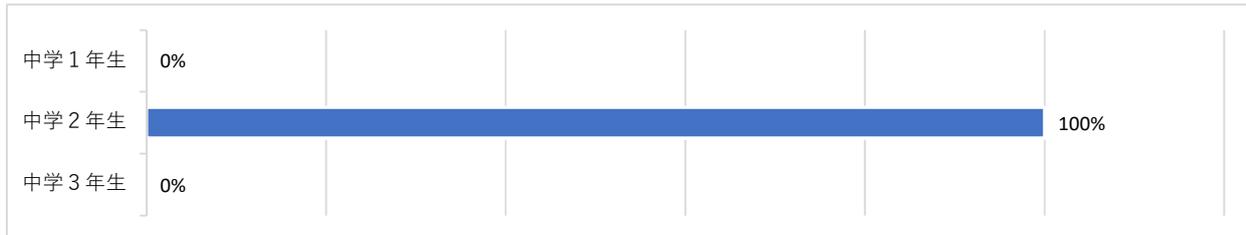
性別

	件数	割合
女性	1	100%
男性	0	0%
その他	0	0%
総計	1	100%



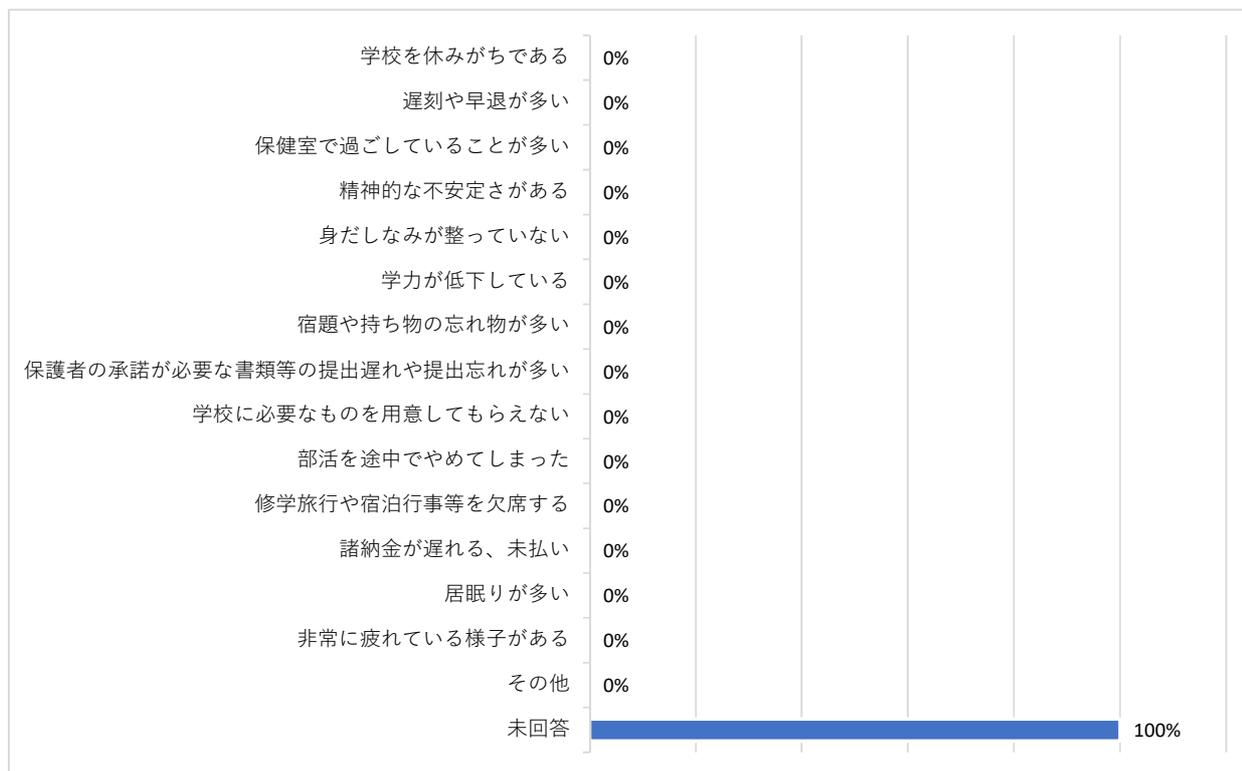
## 学年

	件数	割合
中学1年生	0	0%
中学2年生	1	100%
中学3年生	0	0%
総計	1	100%



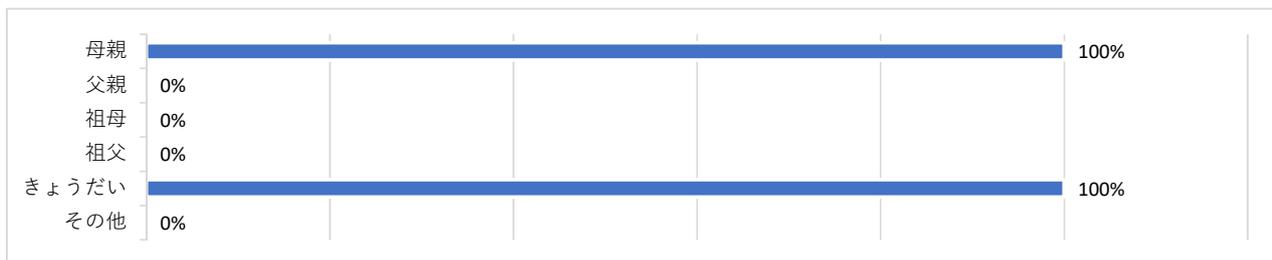
## 学校生活の状況（あてはまる番号すべてを選択）

	件数	割合
学校を休みがちである	0	0%
遅刻や早退が多い	0	0%
保健室で過ごしていることが多い	0	0%
精神的な不安定さがある	0	0%
身だしなみが整っていない	0	0%
学力が低下している	0	0%
宿題や持ち物の忘れ物が多い	0	0%
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	0	0%
学校に必要なものを用意してもらえない	0	0%
部活を途中でやめてしまった	0	0%
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	0	0%
諸納金が遅れる、未払い	0	0%
居眠りが多い	0	0%
非常に疲れている様子がある	0	0%
その他	0	0%
未回答	1	100%
n	1	100%



## 家族構成（あてはまる番号すべてを選択）

	件数	割合
母親	1	100%
父親	0	0%
祖母	0	0%
祖父	0	0%
きょうだい	1	100%
その他	0	0%
n	1	100%



## 家庭でのケアの状況を把握しているか（あてはまる番号すべてを選択）

### ①家庭でのケアの状況を把握しているか

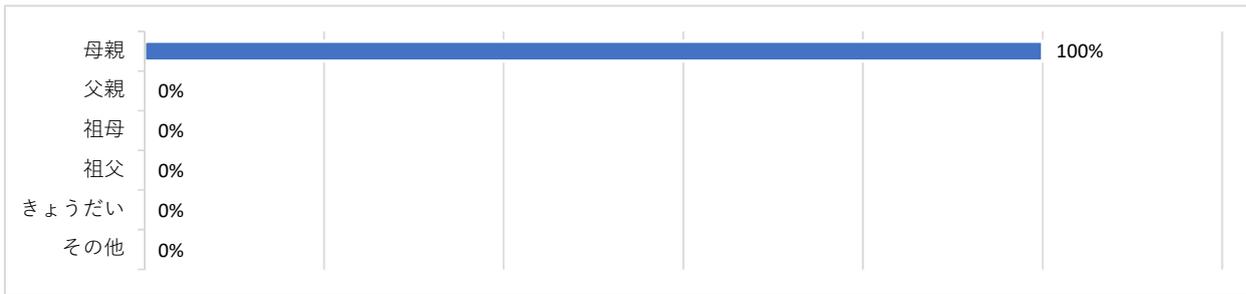
	件数	割合
はい	1	100%
いいえ	0	0%
総計	1	100%



### ②「はい」の場合、ケアの具体的な内容

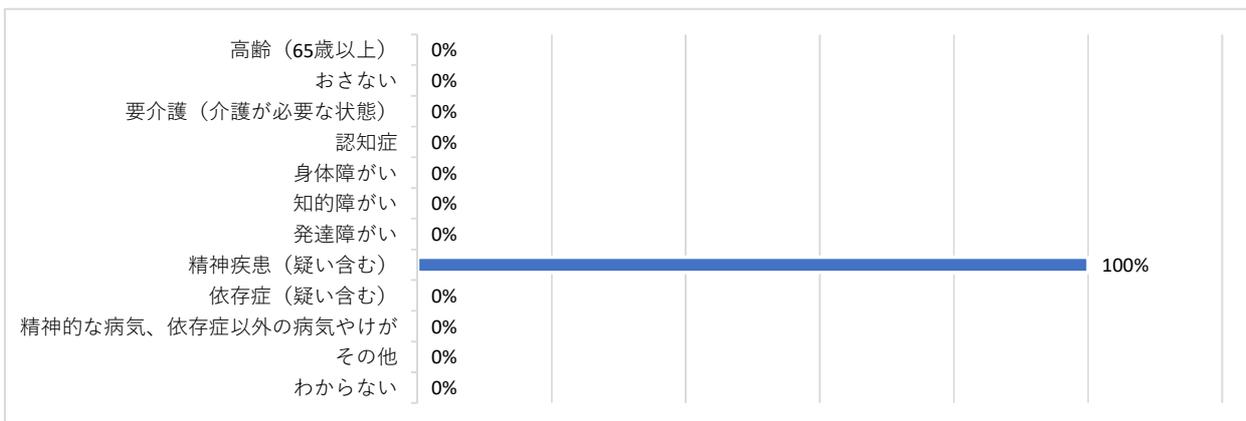
#### a) ケアを必要としている人

	件数	割合
母親	1	100%
父親	0	0%
祖母	0	0%
祖父	0	0%
きょうだい	0	0%
その他	0	0%
n	1	100%



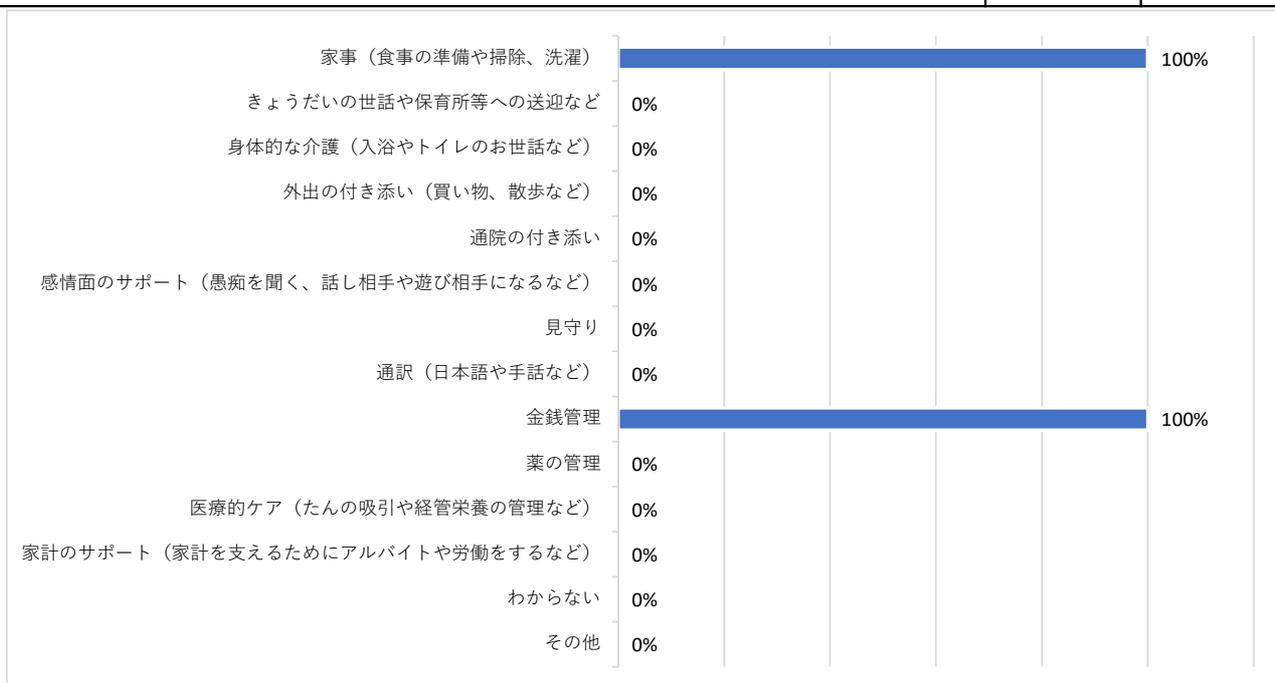
## b) ケアを必要としている人の状況

	件数	割合
高齢（65歳以上）	0	0%
おさない	0	0%
要介護（介護が必要な状態）	0	0%
認知症	0	0%
身体障がい	0	0%
知的障がい	0	0%
発達障がい	0	0%
精神疾患（疑い含む）	1	100%
依存症（疑い含む）	0	0%
精神的な病気、依存症以外の病気やけが	0	0%
その他	0	0%
わからない	0	0%
n	1	100%



### c) ケアの内容

	件数	割合
家事（食事の準備や掃除、洗濯）	1	100%
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	0	0%
身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	0	0%
外出の付き添い（買い物、散歩など）	0	0%
通院の付き添い	0	0%
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手や遊び相手になるなど）	0	0%
見守り	0	0%
通訳（日本語や手話など）	0	0%
金銭管理	1	100%
薬の管理	0	0%
医療的ケア（たんの吸引や経管栄養の管理など）	0	0%
家計のサポート（家計を支えるためにアルバイトや労働をするなど）	0	0%
わからない	0	0%
その他	0	0%
n	1	100%

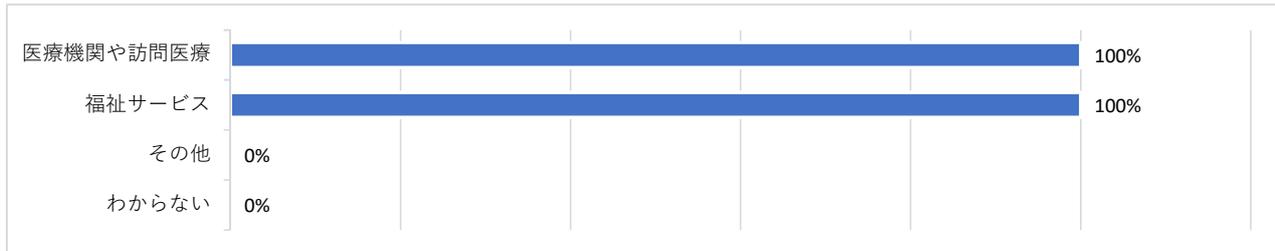


### ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

回答なし

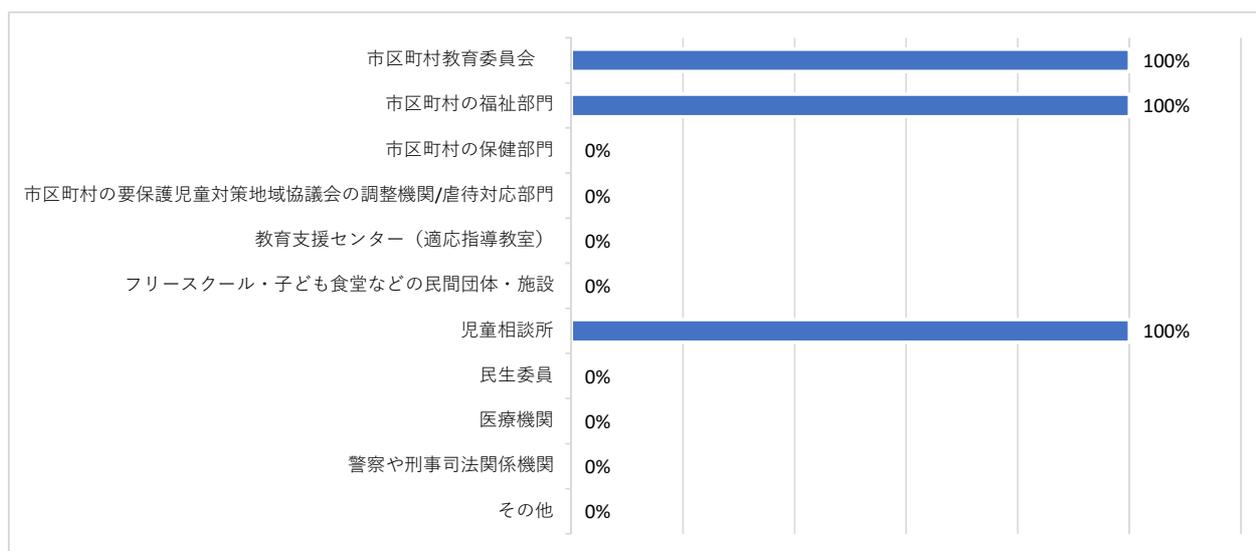
### この世帯がどのような機関とつながっていたか

	件数	割合
医療機関や訪問医療	1	100%
福祉サービス	1	100%
その他	0	0%
わからない	0	0%
n	1	100%



## SSWが直接連携した機関（つないだ機関）

	件数	割合
市区町村教育委員会	1	100%
市区町村の福祉部門	1	100%
市区町村の保健部門	0	0%
市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	0	0%
教育支援センター（適応指導教室）	0	0%
フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	0	0%
児童相談所	1	100%
民生委員	0	0%
医療機関	0	0%
警察や刑事司法関係機関	0	0%
その他	0	0%
n	1	100%



## 要保護児童対策地域協議会への通告ルート

	件数	割合
市区町村教育委員会経由	0	0%
学校から直接連絡	1	100%
その他	0	0%
総計	1	100%



## 学校で行った支援（要対協との連携も含めて）

見守り

## 支援した結果、子どもの変化

観察しながら声掛け、安定

## SSWから見た支援の難しさ

どこの段階で支援したら良いのか。

## (3) -2 2. 要保護児童ネットワーク協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

### 性別

	件数	割合
女性	0	0%
男性	0	0%
その他	0	0%
総計	0	0%

### 学年

	件数	割合
	0	0%
総計	0	0%

## 学校生活の状況（あてはまる番号すべてを選択）

	件数	割合
学校を休みがちである	0	0%
遅刻や早退が多い	0	0%
保健室で過ごしていることが多い	0	0%
精神的な不安定さがある	0	0%
身だしなみが整っていない	0	0%
学力が低下している	0	0%
宿題や持ち物の忘れ物が多い	0	0%
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	0	0%

学校に必要なものを用意してもらえない	0	0%
部活を途中でやめてしまった	0	0%
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	0	0%
諸納金が遅れる、未払い	0	0%
居眠りが多い	0	0%
非常に疲れている様子がある	0	0%
その他	0	0%
未回答	0	0%
n	0	0%

### 家族構成（あてはまる番号すべてを選択）

	件数	割合
母親	0	0%
父親	0	0%
祖母	0	0%
祖父	0	0%
きょうだい	0	0%
その他	0	0%
n	0	0%

### 家庭でのケアの状況を把握しているか（あてはまる番号すべてを選択）

#### ①家庭でのケアの状況を把握しているか

	件数	割合
はい	0	0%
いいえ	0	0%
総計	0	0%

## ②「はい」の場合、ケアの具体的な内容

### a) ケアを必要としている人

	件数	割合
母親	0	0%
父親	0	0%
祖母	0	0%
祖父	0	0%
きょうだい	0	0%
その他	0	0%
n	0	0%

### b) ケアを必要としている人の状況

	件数	割合
高齢（65歳以上）	0	0%
おさない	0	0%
要介護（介護が必要な状態）	0	0%
認知症	0	0%
身体障がい	0	0%
知的障がい	0	0%
発達障がい	0	0%
精神疾患（疑い含む）	0	0%
依存症（疑い含む）	0	0%
精神的な病気、依存症以外の病気やけが	0	0%
その他	0	0%
わからない	0	0%
n	0	0%

### c) ケアの内容

	件数	割合
家事（食事の準備や掃除、洗濯）	0	0%
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	0	0%
身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	0	0%
外出の付き添い（買い物、散歩など）	0	0%
通院の付き添い	0	0%
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手や遊び相手になるなど）	0	0%
見守り	0	0%
通訳（日本語や手話など）	0	0%
金銭管理	0	0%
薬の管理	0	0%
医療的ケア（たんの吸引や経管栄養の管理など）	0	0%
家計のサポート（家計を支えるためにアルバイトや労働をするなど）	0	0%
わからない	0	0%
その他	0	0%
n	0	0%

### ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

回答なし

### この世帯がどのような機関とつながっていたか

	件数	割合
	0	0%
医療機関や訪問医療	0	0%
福祉サービス	0	0%
その他	0	0%
わからない	0	0%
n	0	0%

## 外部機関へのつなぎ方

	件数	割合
市区町村教育委員会経由	0	0%
学校から直接連絡	0	0%
その他	0	0%

## SSWが直接連携した機関（つないだ機関）

	件数	割合
市区町村教育委員会	0	0%
市区町村の福祉部門	0	0%
市区町村の保健部門	0	0%
市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	0	0%
教育支援センター（適応指導教室）	0	0%
フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	0	0%
児童相談所	0	0%
民生委員	0	0%
医療機関	0	0%
警察や刑事司法関係機関	0	0%
その他	0	0%

## 学校で行った支援(つなぎ先との連携も含めて)

回答なし

## 支援した結果、子どもの変化

回答なし

## SSWから見た支援の難しさ

回答なし

(4) 「3. 外部の支援にはつないでいない」と回答した方にお伺いします。外部の支援につながなかった理由を教えてください。また、どのように対応しているのかお教えてください。

**ア 理由**

回答なし

**イ 対応方法**

回答なし

(5) ヤングケアラーの把握や支援にあたって工夫していること、気を付けていることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

学校との情報共有

見守りと支援のタイミング

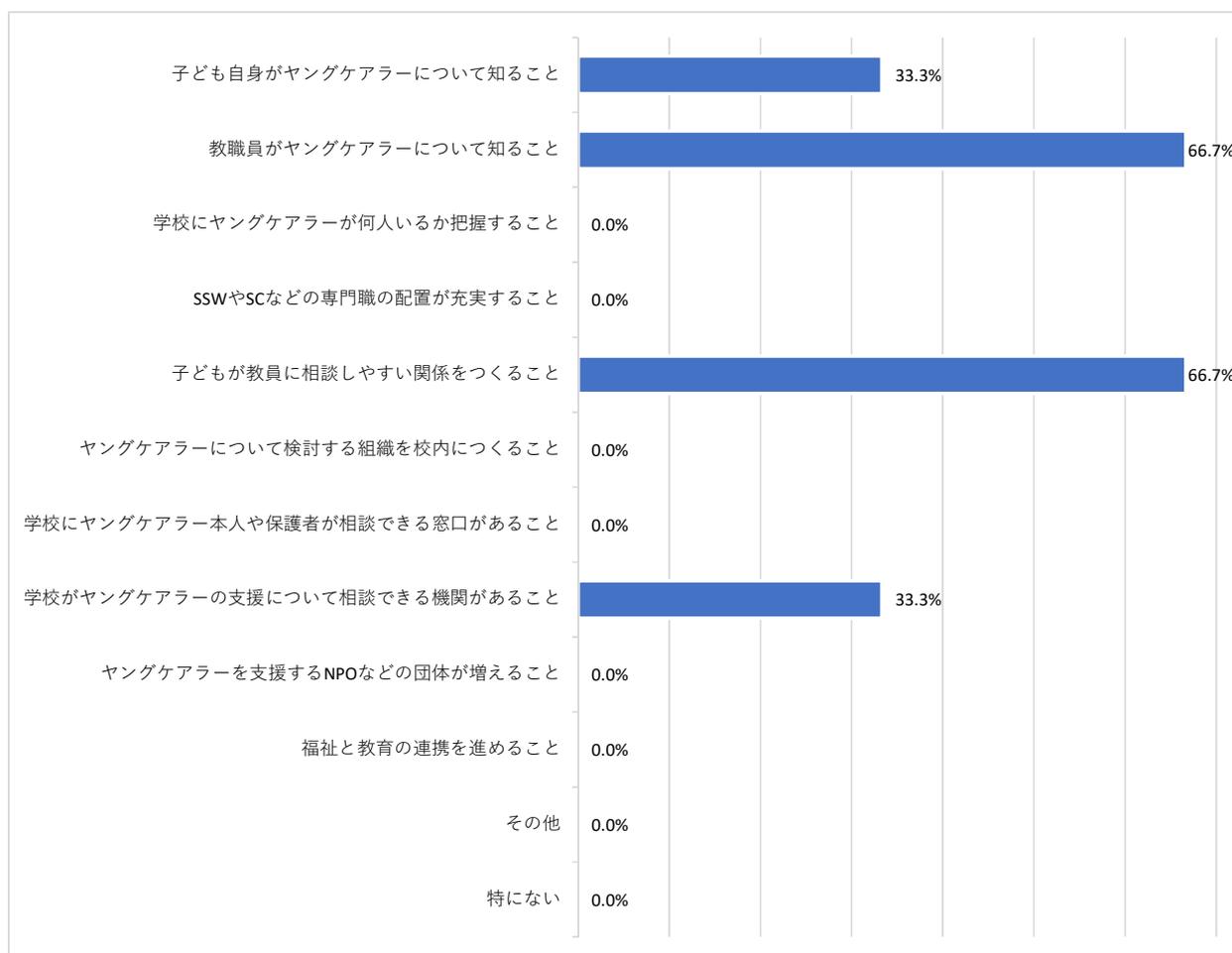
(6) ヤングケアラーの把握や支援にあたって難しいと感じることはどのようなことですか。具体的にお答えください。

児童自身がヤングケアラーという認識

本人の意思の尊重

**問3 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。（あてはまる番号すべてを選択）**

	件数	割合
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	1	33.3%
教職員がヤングケアラーについて知ること	2	66.7%
学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	0	0.0%
SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること	0	0.0%
子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	2	66.7%
ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	0	0.0%
学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	0	0.0%
学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	1	33.3%
ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること	0	0.0%
福祉と教育の連携を進めること	0	0.0%
その他	0	0.0%
特にない	0	0.0%
n	3	100.0%



#### 問4 ヤングケアラーへの支援に関して自由にご意見をお書きください。

児童生徒を教育している教職員が気づかなければならないことだと考える。以前は担任による家庭訪問週間などがあったが、今は行わない学校が増えている。やはり、必要なのかもしれないと考える。家庭を訪問する中で、課題を発見できるのではないか。ヤングケアラーがお世話をするのは大概、家族であるから、児童を取り巻く家族の状況を知るには、家庭訪問が有効だと考える。\*家庭訪問週間が行われなくなってきた、理由を理解はしているが。工夫の余地はあると考える。

相談体制の充実